

上伊那音楽教育研究会

ハーモニー

第3号

令和6年9月9日

文責 高橋 明日香

□教育課程研究協議会 事前授業□

箕輪西小学校 永井先生の実践より

題材「せんいつのとくちょうを感じよう」

教材「陽気な船長」



小学校4年生の器楽の授業を参観させていただきました。ソプラノリコーダーで、スタッカートやレガートの奏法を習得しながら、曲想の特徴を生かして「陽気な船長」を演奏する場面です。

授業者の永井先生は、子どもたちが個人の技能習得状況に合わせて、自分で練習を進められるように、運指やタンギングのポイントが分かりやすいよう、動画を準備されていました。

1人1台の端末を用いて、自分の練習したいポイントを反復練習できる手立てがされており、必要な練習を子どもたち自ら選んで学習できる授業です。

(←授業冒頭の常時活動の様子)

今回のハーモニーで授業の様子を会員の皆さんにお伝えして、教育課程研究協議会につなげたいと思います。

○前時までの学習

「スタッカート」や「レガート」の奏法による音楽のイメージの変化がまとめられていました。

「スタッカート」では“ハキハキ”“ノリノリ”“楽しい”などのイメージが出てきています。「レガート」では“ゆったり”“のんびり”といった「スタッカート」とは異なったイメージが子どもたちから出てきていた様子が、掲示物でまとめられていました。

「陽気な船長」の前半部分と後半部分の曲想の違いを子どもたちが把握した状態で、公開の授業が始まっています。



○個人追究の場面



個人での演奏練習場面です。楽譜で音や、どの奏法で演奏するのか確認した後、速度が選べる練習用の動画を再生して、運指や奏法を観ながら練習していきます。

動画を繰り返し視聴したり、うまくいかない部分だけ再生したりすることができます。細かい演奏方法は先生に質問しながら、自分が思っている演奏に近づけるように、反復練習をしていました。

この時間は、教室をいくつかに分けて1人ずつの練習ができるよう配慮されていました。自分の演奏を録音して聴くことができるようなスペースも用意されています。

○練習成果の共有場面

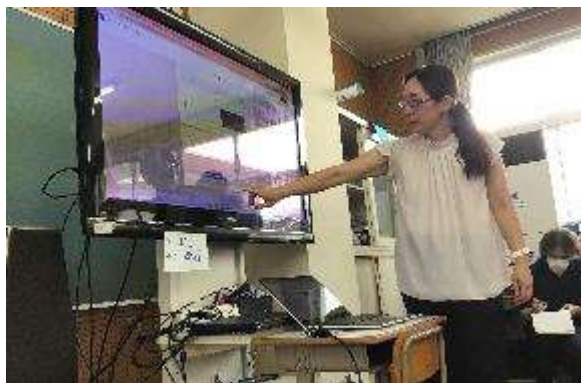
本時の練習成果を友だちと共有します。自分がどのようなことに気をつけて練習したのか、どのように演奏したいのかを伝えて実際に練習成果を聴いてもらっていました。

個人で進度に差はありますが、お互いの演奏や練習成果を認め合う姿がありました。

スタッカートやレガートの吹き方について、自分が掴んだコツを教えあって、より良い演奏に繋がれるようアドバイスをしあい、次時につなげていきます。



○まとめの場面



この時間の振り返りを個人用端末に入力して、全体共有していきます。

1人1台端末は多くの学校で導入されていると思います。全体共有場面での使い方の参考になりました。

音楽の授業でのICT活用は悩みが多い部分がありますが、振り返りの共有は取り入れてみたいと感じました。子ども達からは、「苦手な部分に集中して取り組んで、克服することができた」といった振り返りが寄せられていました。

○研究会から

授業後の研究会で話題になったのは「自由進度学習」についてです。音楽の授業でどのように自由進度学習を取り入れていくのが適切か悩まれている先生方が多くいらっしゃいました。併せて、グループでの協働的学習も場面設定に難しさについて話題になりました。

今回の授業は、ICTの活用、自由進度学習、グループでの追究を盛り込んで公開していただきました。教育課程研究協議会に向けて、自由進度学習やICTの活用について、私たち参観者も実践を深めていきたいと感じます。

授業者の永井先生、公開に携わってくださった箕輪西小学校の先生方、4年生の皆さん、学び多い素敵な授業をありがとうございました。